



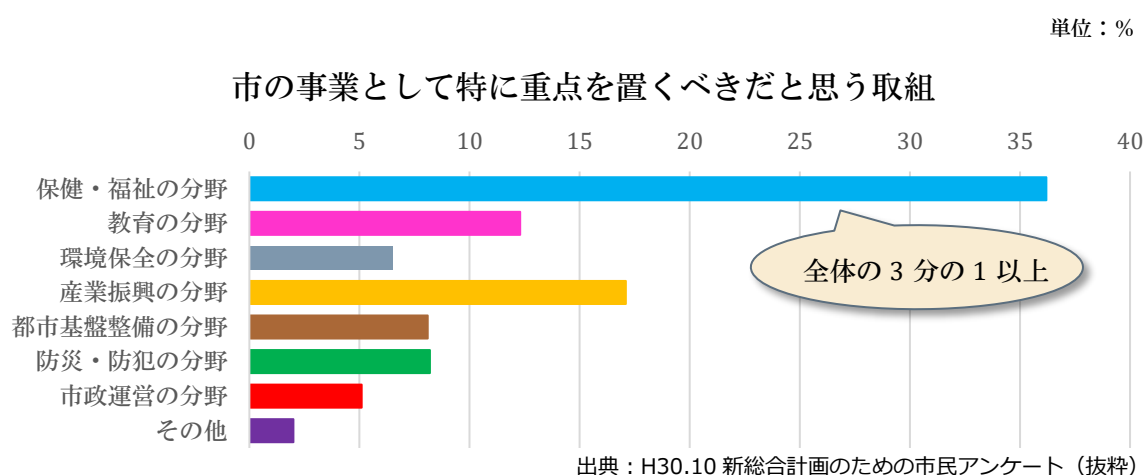
**美濃加茂市第6次総合計画**  
**基本構想・基本計画**

---

# 計画策定にあたって

昨今の社会環境の変化や直面している課題に配慮し、美濃加茂市のまちづくりについて中・長期的な視点が求められている。そのため、計画的、重点的に事業を推進するための「道しるべ」となる新総合計画の策定が必要であり、この新総合計画が美濃加茂市の最上位計画として位置付けられるべきである。

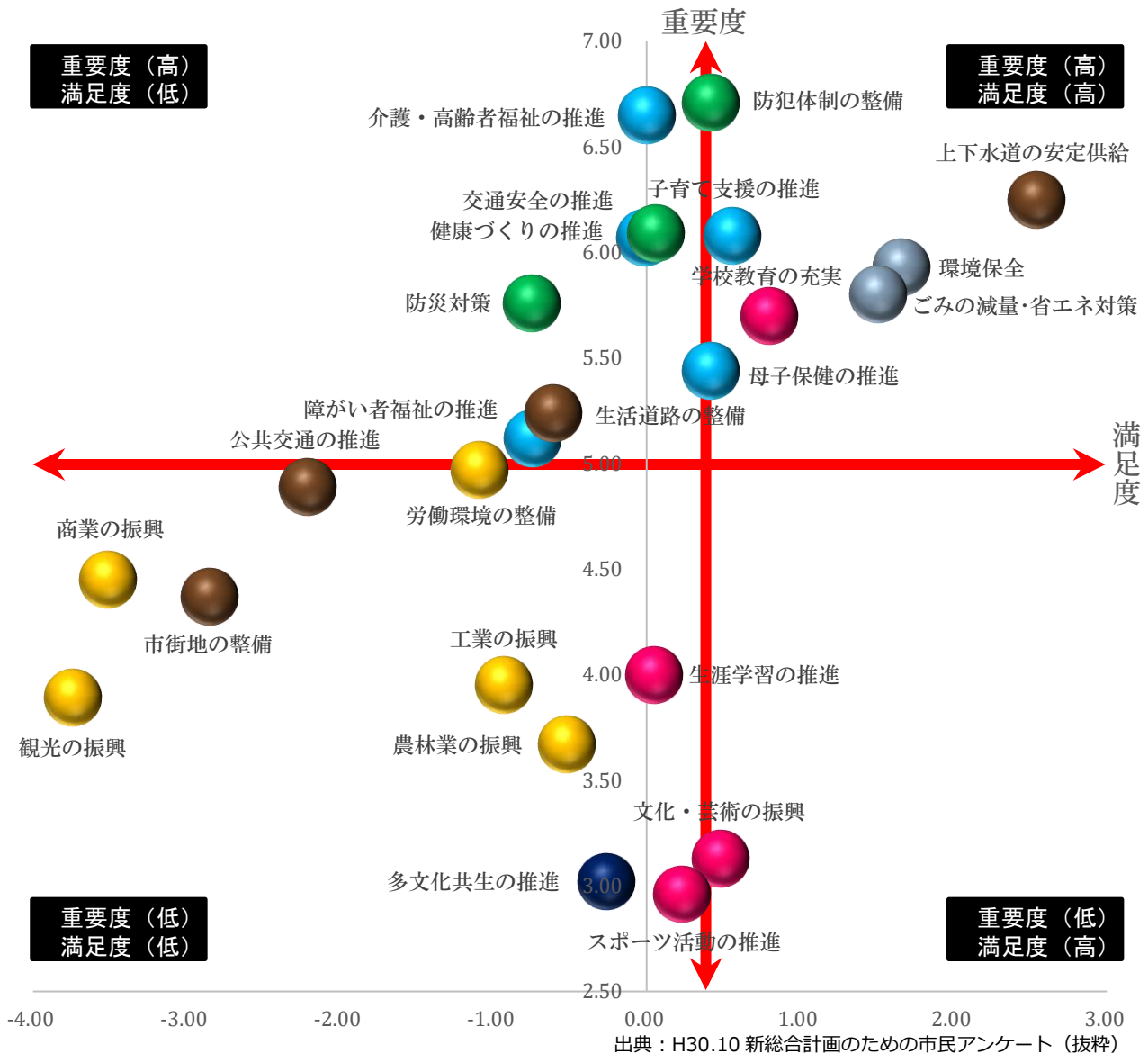
新総合計画は、「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」の3層構造から成り立っている。計画期間を10年としている「基本構想」では、美濃加茂市が進むべき方向性を示し、5年で見直しをすべき「基本計画」では、将来像とKPIを明確にしている。また、国の動向や社会情勢の変化、市民ニーズの多様性に対し、柔軟に対応するために、「実施計画」は基本構想や基本計画に掲げる将来像やKPIの達成に向けて、毎年度見直しをかけるべきである。



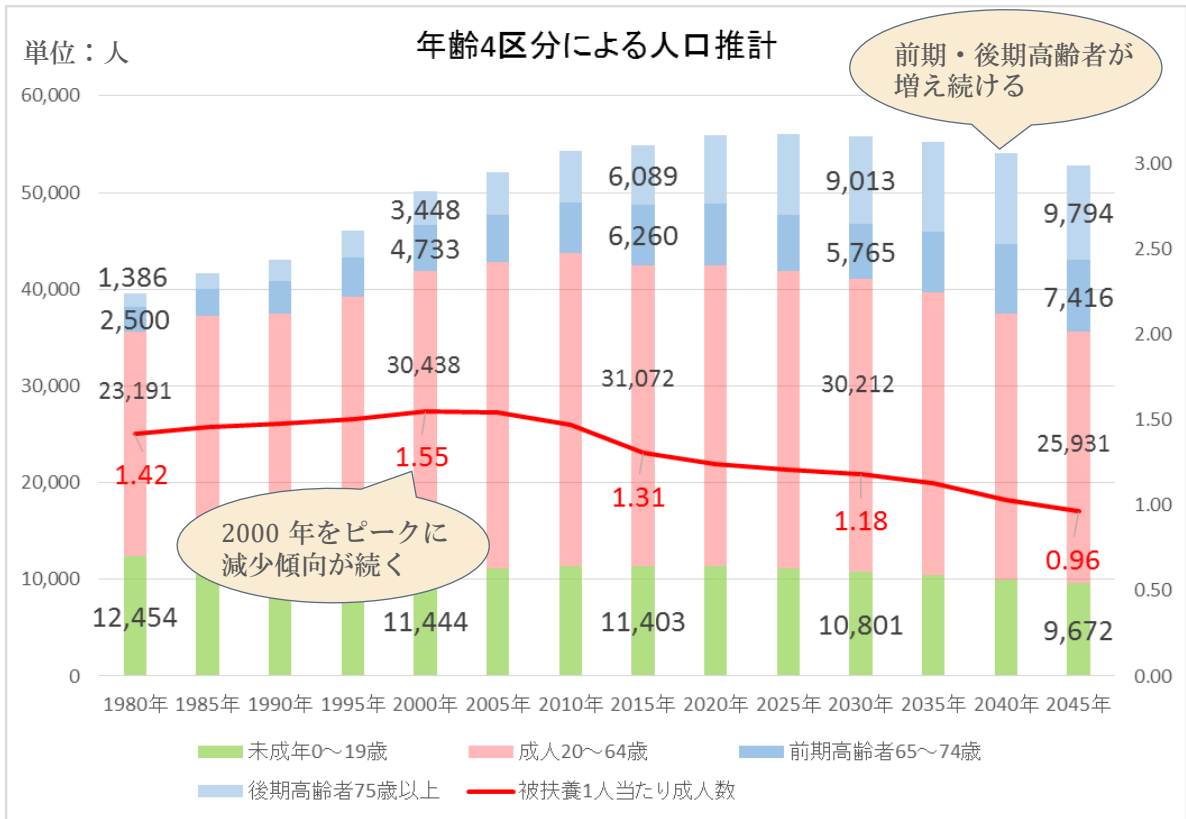
このグラフは、「これからの美濃加茂市全体の施策の中で、特に重点を置くべきだと思う取組は何ですか。」という問いについて、8つの分野から1つ選択し集計をしたものである。市民アンケートの結果から推察すると、保健・福祉の分野が突出しており「健康」に対する関心度の高さが伺える。市民自らが健康を意識するとともに、市としても重点を置くべき取り組みであることを認識しなければならない。

次いで、産業振興の分野が高くなっており、商工業、農林業の発展・継続とともに、働く場の創出に期待されていることが予測される。

## 重要度と満足度の関係



このグラフは「これまでの満足度」と「これからの重要度」をクロス集計したものである。右上の重要度（高）満足度（高）に属する取り組みは、市の施策と市民の考え方が一致している事業であると言える。対して、左上の重要度（高）満足度（低）に属する取り組みは、市の施策と市民の考え方が一致していない取り組みである可能性が高いと推測できる。また、左下の重要度（低）満足度（低）に属する取り組みは、その施策の内容の見直しなど事業の在り方を検討する必要があると言える。



出典：2015年国勢調査及び2015年人口ビジョン

このグラフは年齢区分による今後の人口推移を表すもので、当市においても高齢化の波を避けることができず、年々高齢化が進みつつある。同時に、少子化、生産労働人口の減少も重なる形となり、被扶養者1人当たりの成人数も減少していくと予測される。それらを踏まえると、高齢化を防ぐことは難しいため、子育てしやすい環境を整備して少しでも少子化に歯止めをかけることが重要となる。また、いかに若年層から「健康」に対する意識を高め、生涯健康で健康寿命を高める施策が必要となってくると思われる。

## WALKABLE CITY MINOKAMO

すべての健康のために、歩き続けるまち

新総合計画では、市民・団体・企業・行政が一体となって「歩き続ける」ことを共通の目標とし、「心の健康」「体の健康」「社会の健康」を整えることで、持続可能なまちづくりの実現を目指します。美濃加茂市に住むこと、住み続けることが、健康で豊かな暮らしに繋がるよう、みんなで一歩を踏み出しましょう。

### 健康な心を育む

- ✓ 思いやりの心
- ✓ 他者への関心
- ✓ 豊かな心
- ✓ チャレンジ精神

いろいろな場所での出会い、交流を通じて、より地域に愛着と関わりを強く持ち、助け合える心を育みます。

### 健康な体をつくる

- ✓ 全世代の健康増進
- ✓ 健康寿命の延伸
- ✓ 予防医療の推進
- ✓ 生涯元気

生涯健康で元気な体でいられるよう、家族や地域が一緒になって健康づくりに取り組める環境を整えます。また、情報技術を充実させることで、予防意識の向上を図ります。

### 健康な社会を形成する

- ✓ 成長する産業
- ✓ 自然との調和
- ✓ 安心安全なまち
- ✓ 健全な行財政

魅力ある地域資源を最大限に活かしたまちづくりに取り組みます。また、地域で見守り合い、市民と一緒に安心安全な住みやすいまちを目指します。

## ● 6つのまちづくり宣言

新総合計画において、市民の方から様々な場所で、たくさんのご意見をいただきました。今後、特に重点を置く政策について下図のように6つのまちづくり宣言をし、具体的な宣言内容については、基本計画で定めるものとします。



# 基本計画（重要政策）

計画期間：令和2年度～令和6年度

## 健康増進

### 生涯健康で、元気に生きる！

6つのまちづくり宣言

心と体の健康を図り、  
「生涯元気なまち」を目指します！（健康・福祉分野）

KPI

- ① 健康寿命の延伸  
(男性) 79.90 歳 → 81.00 歳  
(女性) 85.00 歳 → 86.00 歳

平成30年度実績 令和6年度目標

- ② 健康増進に積極的に取り組んでいる人の割合

※令和元年度市民満足度調査実施後、数値設定する

生涯にわたり健康であり続けるために、自分の健康は自分で守るという意識を高めること、スポーツ活動やウォーキングなどの健康増進に積極的に取り組む市民が増えるように、環境整備、普及啓発活動に努めます。また、予防の観点から将来介護のいらぬ生活が送れるよう様々な交流機会や支援事業を実施し、生きがいをもって生活する市民を増やすとともに、介護がいらぬような環境づくりをします。支援が必要になる場合も、早期発見ができるよう相談事業や見守り事業の充実を図り、さらなる支援をしていきます。

## 女性若者活躍

### 女性や若者が輝き、 スポットライトが当たるまち！

6つのまちづくり宣言

女性と若者が輝き、  
自分らしく生きられるまちを目指します！（Caminho・教育分野）

KPI

- ① 生まれる赤ちゃんの人数（年間出生数500人）を維持

491人 → 500人

平成30年度実績 令和6年度目標

- ② 女性と若者が夢を叶えられるまちだと感じる人の割合

※令和元年度市民満足度調査実施後、数値設定する

女性や若者が自分らしく生きられるよう、ライフ・ワーク・バランスを充実させ、夢や希望が叶えられるような子育て環境の支援を充実します。また、子育てについての悩みを一人で抱え込まないように、みんなで一緒に子育てできる仕組みづくりをするとともに、保護者も一緒に成長できるような取り組みも充実していきます。また、子ども達が成長していく中で、自ら楽しく学べるような魅力ある教育環境を整備することで、地域への愛着を持ち、女性や若者の夢が叶えられることができるまちづくりを目指します。

## 多文化 共生

# みんなで一歩を踏み出そう！

6つのまちづくり宣言

お互いのことを理解し、ダイバーシティを活かした魅力あるまちを目指します！（協働・まちづくり分野）

KPI

- ① 外国人市民の高校進学率 93.1% → 97.6%  
平成30年度実績 令和6年度目標
- ② 多文化共生のまちづくりが進んでいると感じる人の割合  
※令和元年度市民満足度調査実施後、数値設定する

外国人市民の自立に向けた支援を行うことで、日本人、外国人区別なく交流できる機会をつくり、地域のパートナーとなれるように取り組みます。

保育園・こども園や小学校、中学校に通う外国人児童生徒に対し、日本での生活に困らないような教育支援を充実させ、進学から就職へ繋がることで、将来を思い描ける外国人児童生徒を増やします。

6つのまちづくり宣言

## 産業 振興

# 活力と”豊かさ”あふれるまち！

付加価値を高め、つくる楽しみと生きがいを感じるまちを目指します！（産業振興分野）

KPI

- ① 1人当たりの所得金額 304.3万円 → 308万円  
平成30年度実績 令和6年度目標
- ② 産業・観光振興に積極的に取り組んでいると感じる人の割合  
※令和元年度市民満足度調査実施後、数値設定する

魅力ある地域資源（人・モノ・情報）と個性を活かしたまちづくりを進めることで、地域資源の付加価値を高めます。また、この地域資源を利活用することで、美濃加茂市を訪れる関係人口を増加させ、ふれあいと賑わいが溢れるまちを目指します。

農業従事者の担い手不足を解消し活性化することで、農業を守っていきます。

豊かな自然環境と美しい里山の風景を後世に残すため、里山を整備し、その里山を利活用した教育支援や遊び場の創出に努めます。



## 地域再生

# 地域の魅力をアップデート！

6つのまちづくり宣言

10年先を見据えた  
まちづくりを目指します！（都市整備分野）

KPI

- ① あい愛バスの利用者数 84,759人 → 120,000人  
平成30年度実績 令和6年度目標
- ② 住みよいまちだと感じる人の割合  
※令和元年度市民満足度調査実施後、数値設定する

みんなのまちはみんなで作るという意識を持ち、快適に暮らせるまちづくりを目指します。移動手段のない方や車の運転が難しい方にとって、どこにいても行きたいところへ移動できるような公共交通、良質な地域空間を整備し、誰にとってもやさしく感じられるまちを整備します。

かけがえのない地球環境を守るため、市民が自発的に環境保全に取り組み、自然と共生できるまちづくりを支援します。

## 防災減災

# レジリエントなまちづくり！

6つのまちづくり宣言

自助、互助、共助を意識することで様々な環境に適応し、  
生き延びる力を身に付けることを目指します！（防災・減災分野）

KPI

- ① 自主防災組織率 79.1% → 100%  
平成30年度実績 令和6年度目標
- ② 災害のための備えができている人の割合  
※令和元年度市民満足度調査実施後、数値設定する

地震、集中豪雨などの自然災害に対応できるよう、日頃から備蓄品の整備、啓発活動などに取り組みます。また、自助・互助・共助を意識し、様々な環境に適応できるよう防災・減災意識の高い市民を増やします。

災害に対する啓発を行い、自主的な防災活動を促進させ、家庭や地域の防災力を高めていきます。

防犯・交通安全面では、地域ぐるみで見守り合う交通安全対策や、防犯活動を行っていけるような環境を整備します。